

# 令和4年度(2022年度)の曾根沼における魚介類の生息状況

山本充孝・石崎大介・鈴木隆夫

## 1. 目的

外来魚駆除のモデル水域として選定した曾根沼（滋賀県彦根市）では、2003年度から外来魚駆除を実施しており、近年ではオオクチバス（以下、バス）が減少し、それに伴って在来魚介類（魚類とエビ類）が顕著に増加している。本年度も外来魚駆除を継続しつつ在来魚介類の生息状況調査を実施した。

## 2. 方法

2022年度の曾根沼では、4月28日に電気ショックボートによるバス駆除を実施したほか、5月中旬から6月初旬にかけて週一回バス仔稚魚の捕獲調査と小型定置網（全長約15m、目合い5mm）による在来魚介類およびバス当歳魚の生息状況調査を実施した。ショックボートで駆除されたバスのうち標準体長190mm以上の個体を親魚とみなしてその数を記録した。また、小型定置網での調査では5～7月および10月の各月中旬に網を一昼夜設置して取り上げ、捕獲魚種と各々の尾数を記録した。これら調査で得られた捕獲効率（CPUE：通電1時間または1操業あたりの捕獲尾数）を過年度と比較した。

## 3. 結果

バス親魚のCPUEは2019～2021年の水準から低下した（図1）。バス仔稚魚の捕獲調査では4月にふ化したと思われる魚群を確認したが、例年はみられるそれ以降にふ化した魚群は確認されなかった。小型定置網でのバス当歳魚のCPUEは前年より減少し（図2）、2015年以降の低水準を維持できた。これらの結果からバスの生息状況は引き続き低位で維持できていると考えられる。一方、小型定置網での在来魚介類のCPUEと確認種数は、引き続き高位を維持しており（図3）、曾根沼はバスの生息量

が低水準に保たれることで在来魚介類にとって良好な状態が維持されていると考えられる。

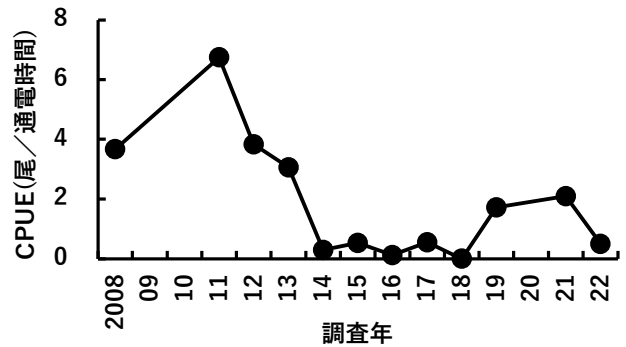


図1 電気ショックボートで駆除されたオオクチバス親魚のCPUEの経年変化

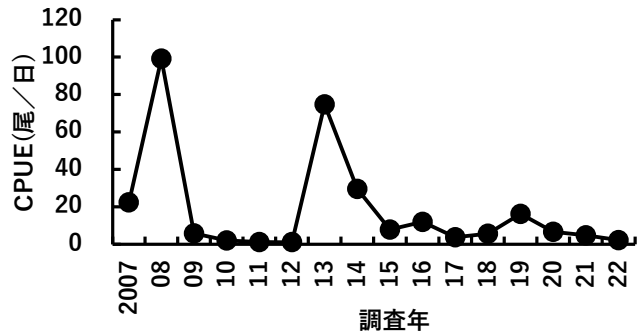


図2 小型定置網でのバス当歳魚のCPUEの経年変化

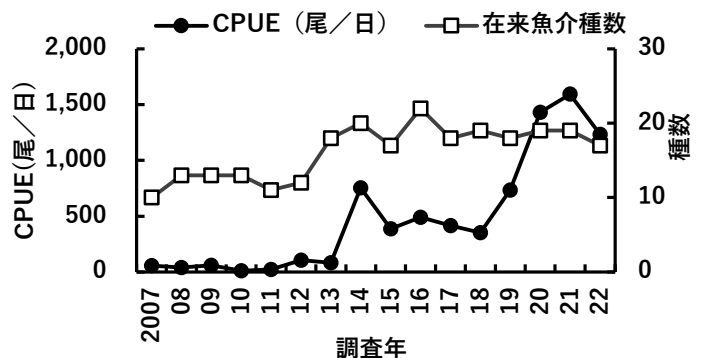


図3 小型定置網での在来魚介類のCPUEと捕獲種数の経年変化